

第2回 豊川市公共施設適正配置計画策定委員会

日時：平成26年8月7日（木）

午後2時から

場所：豊川市役所 委員会室（本庁舎3階）

1 開会

出席 委員9名、事務局7名、傍聴2名

2 議事

（1）第1回豊川市公共施設適正配置計画策定委員会での意見について

事務局	資料1、参考資料1の説明。
委員長	<p>人口を基準にした比較では、合併市町村の1人当たり公共施設面積が大きい。財政力指数との関係では0.8以上と0.5前後の市町村とで大きく2つのグループに分かれている。豊川市は0.87で、0.5前後の市町村の1人当たり公共施設面積が大きい傾向にある。</p> <p>公債費比率との関係は、人口が多いと1人当たり公共施設面積は小さくなり、人口が少なくても一定規模の公共施設は必要なため、1人当たり公共施設面積は大きくなる傾向がある。</p>
委員	<p>合併市町村の1人当たり公共施設面積が大きいのは、旧市町の施設をそのまま引き継いでいるため。少ない都市は、関東近郊、東京近郊の比較的郊外のまちが多い。人口密度が高くコンパクトで、合併していない都市で1人当たり公共施設面積が少なくなっている。1人当たり公共施設面積が大きい都市は、地方でエリアが広い都市。低人口密度の都市で、皆が公共施設を近くに持ちたいと思えば、1人当たり公共施設面積は大きくなるため、このような傾向が出ると思う。</p> <p>東京近郊の人口密度が高い都市で公共施設マネジメントを先駆けて行っているのは、財政力に比較的余裕があるということが、財政力指数や実質公債費比率のグラフからわかる。また、自主財源だけで何とかしようと思っている自治体が先進的な取組を行っている。借金すればよいと思っている自治体と、余裕があるうちに考えている自治体の違いが、財政力指数や実質公債費比率と公共施設面積の関係に表れている。</p>

委員	名古屋市の区は16万人くらいの人口規模。名古屋市は1人当たり約4.5㎡だが、区では2㎡のところもある。人口密度が高いため、1人当たり公共施設面積が少なくなっている。
委員	簡単に言うと都会と田舎の違い。田舎は遠くても道が広くてすぐに行けるが、都会は近くにあってもごちゃごちゃしていてすぐに行けない。その他いろいろな条件があり、一概に言えない部分もあるが、他都市比較も参考にし、豊川市が独自で考えるべき部分もある。
委員	財政力が低いから合併した背景もあり、合併市町村と合併していない都市とでは、比較にならないと思う。
委員長	人口や財政力から豊川市の位置を、大まかにイメージすることはできる。都市比較をしてどちらが良い、悪いを判断するのではなく、良いところを参考にする必要はある。
委員	佐倉市や秦野市は財政力指数が0.9くらいで、1人当たり公共施設面積は小さい。公共施設マネジメントの先進都市となっており、特色ある事例なのか。
委員	旧豊川市は佐倉市や秦野市と同じレベルだったと思う。合併して1人当たり公共施設面積が3.23まで上がっている。佐倉市も秦野市も公共施設マネジメントを推進する職員がいるので、やり方として参考になる。
委員長	都市により様々な要素はあるが、佐倉市や秦野市などの取組など、豊川市でもできるところがあると思う。
委員長	それでは次第の(2)に入りたい。

(2) 豊川市公共施設適正配置に向けた“3つの重点取組”と“2つの横断戦略”について

事務局	資料2、3の説明。
委員長	まず、資料2についてはいかが。
委員	支所には窓口が残りそれ以外が移転するので地区住民は困らない、という理解で間違いないか。 施設を集約した場合、移動手段として、コミュニティバスの充実や無料化が必要ではないか。
事務局	視察の際には支所の建物の利用状況なども見ていただきたい。音羽に教育委員会、一宮に上下水道部があり、行政のセンター機能として諏訪地区に集中し

	<p>た方が良いのではないかという提言。支所に残すべき機能は支所で検討中で、それらを踏まえ決めていく。今の利用状況は空き室などがあり、ファシリティマネジメントの観点から整理をしていきたい。</p> <p>アクセスについては、現在も市内循環バスを走らせており、それは継続して、不便がないように検討していく。</p>
委員	<p>アクセスは、今は有効に機能しているとは思えない。アクセスも一体になって考えないと不満が出ると思う。音羽や一宮、御津地区から豊川に行くのは車がないと不便。御津はJRがあるので、豊橋へ出た方が便利という感覚がある。旧町住民の気持ちを反映してほしい。</p> <p>広域連合と関連してくる部分もあるのではないかな。</p>
事務局	<p>アクセスについては、所管部局に委員会での意見を伝える。バスの見直しは、各地域の代表の意見も聞きながら実施している。</p> <p>広域連合については、ファシリティマネジメントとどのようにリンクしていくのかはまだ出てきておらず、現段階ではわからない。</p>
委員長	<p>機能とアクセスは、市民にとってはとても重要なこと。計画段階から一体的に考える必要がある。広域連合は、議論はあるが十分に具体化されていない段階で、今、議論に入れていくことは難しい。</p> <p>資料3の重点取組と横断戦略に移りたい。</p> <p>「PFI事業」や「PPP」について、簡単に説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>PFI事業は、公共施設の建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う新しい手法。豊川市においては、斎場会館をPFIで運営している。</p>
委員長	<p>基本方針に基づき、総務省の策定要請や市の総合計画を勘案しながら適正配置を進めていくとのこと。</p> <p>将来像(案)の“人が集い、市民交流の推進”は、日本語として美しくない気がするが、どうか。</p>
事務局	<p>これは案であり、委員の皆様からご意見をいただければと思う。</p>
委員	<p>これは良い案だと思う。マンガもわかりやすい。見てくれるかどうかという問題はありますが、皆が見てくれるようなものがあれば良いと思う。</p>
事務局	<p>本日の資料では案だが、明日以降、正式に発表していきたい。広報に折込んで全世帯に配布する予定なので、多くの方に見ていただければと思う。公民館等</p>

	に置くことも考えている。
委員	マンガの6ページの建物は、あまり魅力的ではない。
委員	マンガは第1号で今後も出していくのか。マンガは現在の危機的な状況を伝えているが、もう少し魅力的な方向に行くことを言わないと危機感だけを煽って終わってしまう。こんな風になったら良いと思えるものになると良い。状況を知るのが第1弾とすれば、次に魅力的に見えてくる絵も含めた将来像が第2弾としてあると良い。
事務局	計画の熟度が高まったときに、マンガかどうかはわからないが、わかりやすいもの、夢を持てるものを作っていきたい。
委員長	建物等は魅力的にすると、もっと良いかもしれないが、空想的な絵を描いても仕方がない気がする。 計画が進展していく中で、このような市民向けの資料を考えていくと、イメージがわきやすく、内容が良くわかるのではないかと。
委員	マンガでPRすることは素晴らしいと思う。「今後50年間では今ある建物の40%しか改修できなくなってしまうこと」、「1つの施設が一つの機能を果たす考え方を改めて、複数の機能をもたせること」が市民にわかってもらえると、「同じような機能をもつ複数の建物を中学校区で1つにまとめていくこと」も市民にわかってもらえるので良いと思う。マンガが少し大きいように思う。
委員	学校とコミュニティ施設の複合化は、安全性の面で心配がある。良い面もあると思うが、安全性は確保されているのか。事例はあるのか。
委員	静岡県焼津市では、小学校と公民館を複合化しており、その間に小学校の特別教室、理科室や家庭科室、図書室などがあり、特別教室は子どもも地域住民も使えるようになっている。コミュニティスクールということで、学校を作るときに地域住民も参加し、地域の拠点でありながら、学校であるためにはどうするのが良いかを考えている。セキュリティ対策として、毎日、地域の人がボランティアで巡回している。それによって、学校が大事だという気持ちが地域の人たちに芽生えている。 先ほどの事例で出てきた、流山市、立川市、佐倉市なども公共施設マネジメントの考え方の一環で小学校とコミュニティ施設を一緒に作っている。流山市では作っているところだが、小・中学校を一緒につくり、その中にホールや公民館的なものが入り、住民が通り抜けできるようになっている。学校が地域の

	<p>拠点になる事例が増えている。小学校が地域コミュニティの単位になっていることが多く、残すなら学校を残したい考えがあり、学校の空きスペースを活用したり、増築したりするなどして、地域の施設としても使えるようにする。しかし、セキュリティの問題については、どこでも話題になっている。</p>
委員長	<p>多機能化、複合化における市民参画については、完成後もボランティアを含めて市民の力、維持していくための協働が必要になる。ただ多機能化するだけでは済まないということ。</p>
委員	<p>放課後児童を預かることも行っている。</p>
委員	<p>学童保育を地域が支えている事例は多くある。それをもう少し範囲を広げて考えていく。地域が学校を支えていくことと、もう一つのハードルは、役所の縦割り。公民館のような文部科学省関係の施設なら良いが、その他だと教育委員会が反対することも多い。地域の問題と役所の縦割りの問題を両方解決しないと、このようなことはできない。</p>
委員	<p>三重県尾鷲市では、中学校で同じような事例を聞いたことがある。小学校に限定した方が良いのか、中学校でも良いのか。</p>
委員	<p>小学校でも中学校でも、どちらもあると思う。</p>
委員	<p>空き教室があっても児童クラブとして利用できない現状がある。子ども子育て支援法の改正により来年度から児童クラブで受け入れる子どもの数が増えるが、児童館だけでは収まらない。保育量も増える。豊川市の中でも圧縮する施設と、増やしたい施設が出てくると思う。必要なものをリストアップし、減らすものと増やすものを合わせて考えていくと新しい施設を作らなくても必要な施設を増やしていけると思う。</p>
事務局	<p>その通りだと思う。削減目標を最初に出したが、何でも減らすということではなく、機能を保持し、時代に即した中で新たに必要なものもあるので、無駄をなくしていく考えで計画を進めていきたい。</p>
委員	<p>小学校は緊急避難場所でもある。施設の集約化を図るなかで、避難場所が少なくなるリスクをどう担保するかも考える必要がある。</p>
委員	<p>資料2に「学校施設は、児童数、生徒数の動向等を踏まえながら、学校の適正規模、適正配置の検討が必要」とあるが、校区の編成はどこかに委ねるのではなく、ここに謳うということか。</p> <p>学校施設の多機能化で、保育所も入れていこうとしているのか。</p>

	<p>資料3の選定ポイントに「1人当たり施設面積は市平均を大きく上回る」とあるが、これは人口密度の問題。選定ポイントは、4町を合併したから重複施設があるということ、東部・金屋エリアでは複数の老朽化した建物が点在しているので、これらを集約化するというのではないか。前回の意見にもあったが、背景として4町が合併したためということをごくこに謳っても良いのではないか。</p>
事務局	<p>校区はファシリティマネジメントとは違う要素が入ってくるので、教育委員会主導で検討していく。しかし、ファシリティマネジメントの面からも課題があり、施設の多機能化等についての提言をしていく。</p> <p>保育所も老朽化している施設があり、複合化や多機能化の対象になりうる施設。保育の所管課でも施設の見直しなどを行っており、連携して考えていきたい。</p> <p>選定ポイントの「1人当たり施設面積は市平均を大きく上回る」については、顕著なところを書いたということ。委員のご意見は合併による背景があることを明確にした方が良くということか。</p>
委員	<p>合併による背景があるということは、ここで明確にしてほしい。その方がわかりやすい。それが良い、悪いということではない。</p>
事務局	<p>豊川市がファシリティマネジメントに取り組む背景には、合併により重複施設が多くあるということがある。財政的にも、施設を見直す必要がある。今回は大きく書いていないが、“合併”という前提はある。ただ、それだけではなく、旧市町で見たときにコミュニティ施設が多いので、これらを小中学校の改修等に合わせてどのように見直していくかも必要だと考えている。</p>
委員	<p>校区の見直しもゆくゆくは必要になるかもしれないということも、適正配置の中でも出して示してほしい。</p>
委員長	<p>そこまでこの委員会で踏み込むことは難しい。そういう意見があったことを伝える程度かと思う。</p>
委員	<p>“3つの重点取組”と“2つの横断戦略”については、全体としては良いと思う。重点取組1は、「支所における行政サービスの見直し」ではなく、「市全体の行政サービスの見直し」だと思う。本庁舎と支所の役割をどうするのか。それによって支所の役割がどうあるべきか、という観点でないと支所だけをターゲットにしていると見える。行政サービス全体を見直すことを念頭に、支所</p>

	<p>を見直すという考えが必要。教育委員会や上下水道局が支所にあるため不便という話があったが、それを解消するために、民間施設の利用や空き施設の利用も考えられる。支所の適正化として、本庁舎を含めて考えていることを示す方が良いのではないか。</p> <p>重点取組の2と3については、実際には1、2、3がセットであると思う。支所が余ってくる、そこにコミュニティ施設を入れる、あるいは学校にコミュニティ施設を入れる。重点取組の1、2、3はそれぞれ連動しているので、これらを合わせて考えていくことが重要だということをまず謳うべき。横断戦略かどこかで謳うことで、モデルエリアにつながる。</p> <p>モデルエリアの選定ポイントがこのように出されると、旧町のサービスが低下すると受け取られてしまうので、そう取られないようにすることが重要。白書のように客観的な数字を見せることも必要だが、それぞれの場所が良くなっていくことが前面に出てこないと後で反発が出る可能性がある。そのことに気をつけて書いた方が良い。</p>
事務局	ご意見を踏まえて見直しを検討したい。
委員長	モデルエリアの選定は、5エリアを実際に回り、最終的に2つか3つエリアを選定するということがよいか。
事務局	6ページに絞込みを示している。老朽度の進んでいる施設などを挙げているが、一層古いものもあり、それぞれ程度がある。それらを含めて、早急に手をつけなければならない地区もある。そのエリアを絞り込み、次年度以降につなげていく考え。
委員	選定するときに、何を優先順位に考えるかが重要。一番重要なことは、市民の生命を守る、安全であること。人の命に関わる施設を何とかすることは一番。コミュニティ施設など、なくても何とかなるものもある。必要なものとはレベルが違う。それと、施設の老朽度、実際の利用度など、白書の内容をもう一度整理して、何を優先したのか説明できるようにした方が良い。西尾市でも何を優先順位にするかを最初に言っており、市民の安全・生命を優先している。それが一番説明しやすく理解もされやすいので、どのような視点でエリアを選定したか説明できる指標が必要。
委員	施設関係の話がある一方、まちづくりとしてのアフターB1の話がある。豊川の祭りやブランドなどが加味されて判断基準になると良いと思う。シティセ

	ールスなど、それぞれをバラバラに進めるのではなく、関連する部分を考慮すべきだと思う。
委員	支所における行政サービスの見直しの意見は、そうだと思った。合併が進められてきたが、音羽に教育委員会があり、遠くの人も音羽まで行かなければならなかった。上下水道局は一宮にあったので音羽の人もそこまで行かなければならなかった。市民の生活に密着したものは市の中心に統合した方が皆のためだという意味合いで受け取っていたが、先生の指摘を受けて、そういう見方もあるのかと思った。文章表現はなかなか難しい。皆が理解できる文章表現が良いと思う。
委員長	これで本日の議事を終了したい。

3 その他

事務局	次回は視察を行うので、傍聴はできないので了承いただきたい。
-----	-------------------------------